



ツエーゲン金沢

視覚障害者のスポーツ観戦を「あたりまえ」に！ 1/2

「移動障害」「情報障害」と呼ばれる視覚障害を対象に、観戦会をはじめとする啓発活動「Future Challenge Project」を10/17甲府戦にて実施。「共に観戦を楽しむことができる環境・雰囲気を作り上げる」ことを目的としたこの事業は、クラブ単独ではなく「視覚障害の方々と共にスポーツ観戦を楽しみたい」という共通の想いのもとに集まった諸団体と一緒に実行委員会を発足して実現した「共創プロジェクト」。今後も継続的に活動を行い、サッカーを通じて、誰もが共に暮らし続けられるまちづくりを目指す。



活動場所 石川県西部緑地公園陸上競技場



協働者

企業、NPO、住民、学校、行政

協働者名

Future Challenge Project実行委員会(「あうわ」視覚障害者の働くを考える会 / 金沢市市民活動サポートセンター / 公益社団法人金沢青年会議所 / 金沢星稜大学 スポーツ学科地域スポーツマネジメント研究室 / ツエーゲン金沢BFC)、石川県、石川県視覚障害者協会、金沢市、株式会社北國新聞社、株式会社アイ・オー・データ機器、NPO法人アイメイトクラブ石川、金沢工業大学松井くにお研究室、金城大学、北陸放送株式会社



協働者の声

「あうわ」視覚障害者の働くを考える会 / 林 由美子 氏



スタジアム観戦したくても難しいと諦める視覚障害者が多い中、今回多くの団体の力が合わさり観戦会を実現できた。また、介添えの学生達と視覚障害者が共に楽しんでいる様子が見られ、視覚障害者と介助者ではなく、人と人との繋がりを結べた点、まさに共生社会実現への第一歩になったことが本事業の特筆すべき点だと思う。



スタジアムへ向かう視覚障害者の方と介添えの学生



来場者に配布した「応援啓発ハリセン」



活動詳細情報

1

[公式サイト①](#)

2

[公式サイト②](#)

カテゴリ(SDGs) / 取り組みテーマ



3

すべての人に健康と福祉を



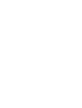
10

人や国の不平等をなくそう



11

住み続けられるまちづくりを



17

パートナーシップで目標を達成しよう



ツエーゲン金沢

視覚障害者のスポーツ観戦を「あたりまえ」に！ 2/2

Story

【共創プロジェクト】

当クラブが以前よりブラサカチーム「ツエーゲン金沢BFC」を通じて視覚障害啓発活動に取り組んでいたことから本事業がスタート。「視覚障害の方と共に観戦を楽しみたい」という趣旨に賛同する企業団体と共に実行委員会を発足。観戦を楽しんでもらうこと、また当日の来場者全員に視覚障害のことを理解してもらうことで、石川県を誰もが共に暮らし続けられるまちにすることを目標とした。



視覚障害体験・啓発ブースの様子

【キーワードは「共に楽しむ」】

視覚障害は別名移動障害・情報障害と呼ばれており、目が見えないため外出を控える方が多い。その課題を解決すべく以下3点を工夫。

- ①オンライン音声配信サービス「PlatCast」を活用し、地元TV局アナウンサーによる実況、OB選手による解説を配信。
 - ②地元大学の福祉系学部所属の学生が、視覚障害の方の介添えを担当。駅からバス乗車、観戦、試合後に駅で解散するまで参加者に学生が1名ずつついた。当日は「サポートしてあげる⇄してもらう」という上下関係でなく、「共に観戦を楽しむ」をテーマに参加者と接してもらった。
 - ③音で共に応援を楽しむため、来場者全員に応援ハリセンを配布。視覚障害への理解を深める目的で、裏面には啓発情報を記載。
- 上記の他、視覚障害啓発・体験ブースも出店。



試合中 視覚障害の方と学生で談笑する様子も多々見られた

【視覚障害者の方の想い】

当日は視覚障害者20名が参加。試合後には「介添えの学生とPlatCastがあったから参加しようと思ったし楽しめた」「ハリセンを叩きながら応援が一体感を感じた」といった感想の他、「普段接しない若者と交流できて嬉しかった」とのコメントが多く、観戦を楽しむだけでなく参加された方のコミュニティを広げることができた。本事業は、関わった全員が共に楽しみ、学び、良い変化を得ることができた。来年以降も継続し、サッカーを通じて「共生社会」の実現に寄与していきたい。